

サービスラーニングを振り返って

社会福祉学部社会福祉学科 2年 原田 匠

活動先：知多地域障害者生活支援センター らいふ

クラス：松下 典子 先生

1. はじめに

私は「知多地域障害者生活支援センターらいふ」で6日間サービスラーニング活動に行った。らいふではホームヘルプサービスやレスパイトサービスなどさまざまな事業を行っているが、私は昼間障害を持ったお子さんを一時的にお預かりする日中一時支援のお手伝いをさせてもらった。そこで私は今まで経験することがなかった障害児との交流を6日間することができた。

2. 自分の成長と気づき

私が今年サービスラーニングのゼミを希望した理由は1年次に講義を受ける中で地域福祉に興味を持ち、地域福祉コースに所属することを決めたが、福祉における地域の役割、地域が出来ることについてあまり実感して理解することが出来ず、「これは自分が直接地域に出ていくしかない」と思い志望したのである。

事前学習では「らいふ」の歴史や成り立ちについて自分たちで調べたり、活動先の担当者の方に来ていただき、日中一時支援についてや発達障害を持つ子どもたちとの関わり方の注意点などを教えて頂くことができた。それまで障害児と関わったことのない私にとってはそのお話を聞くだけでサービスラーニングに対する不安を解消することができた。しかし、いざサービスラーニングが始まり、子どもたちと顔を合わせるとなる不安と緊張の気持ちでいっぱいになってしまっていた。だが障害をもっている子どもたちと初めて顔を合わせた瞬間、子どもたちの方から笑顔で「おはよう」と声をかけてくれたので落ち着くことができた。活動中は職員の方の協力もありとても楽しく障害児と交流することができたが私自身戸惑ったことがあった。それは注意することの難しさである。「〇〇君、お片づけしてから次の場所に行こうね」と声をかけてもなかなか言う事を聞いてくれず、どうしたら聞いてくれるのだろうと悩んでいた。そして職員の方にそのことを言うと「注意をするときは笑顔とかではなく、真剣な顔で注意するのいいよ」とアドバイスをいただき、それを実行すると時には自分の注意に応じてくれるようになった。利用者の中には耳が聞こえなかったりしてなかなかコミュニケーションをとることが難しい子もいるが、私が必死になってジェスチャーを使って伝えようとすれば理解してくれたりして、コミュニケーションを取る方法は言葉だけではないんだと改めて感じることができた。サービスラーニング最終日には私たち学生が企画したカップケーキ作りを行った。活動先の担当者の方との事前打ち合わせでは「みんなで1つのものを作るのは難しい」と言われていたため少し不

安はあったが、粉をボール移す子、卵を割る子などというように細かく役割分担をして、ちょっとでも参加して楽しかったと思ってもらえるように頑張った。出来あがったカップケーキを「おいしい」と言って食べてくれる子どもたちを見ると私自身もとてもうれしい気持ちになった。

そして私がこの1年間のサービスマーケティングを通して感じたことは振り返りをする事の大切さである。活動中は毎日活動記録を書いていたのだが、その日反省した点を次の日には生かしたり、活動をして疑問に思った点を書き留めておき、後日職員の方に質問したりすることで6日間のサービスマーケティングをとっても充実したものにする事ができた。また活動が終わった後もクラスでそれぞれ活動報告をおこなったりすることで情報を共有でき、NPOに対する理解をより深める事ができた。

3. 活動を通して見えてきた地域活動や社会課題

らいふでの1日のスケジュールの中に近所のコンビニにおやつを買いに行くという時間があるのだが、らいふでは支援者が何でもやってしまうのではなく利用者の方に行えることはやらせてもらうという形をとっているため、どうしてもレジでの支払いに時間がかかってしまうことがあった。しかしそんな時でも店員さんは笑顔で優しい言葉がけをしてくれた。私はその時こういう地域住民の理解こそが地域支援活動を行っていく上で最も大切なことだと感じた。また私は6日間の活動を終えて日中一時支援の必要性をしみじみと感ずることが出来た。日中一時支援では障害児を持つ親は昼間子どもを預けることで自由な時間を持つ事ができ、パートなどで働くこともできる。また子どもも夏休み中ずっと家にいるのではなく、らいふに来ることによって自立に向けた一歩を踏み出すことができる。この日中一時支援は子どもと親両方のためにも大切なものだと私は考える。しかし現在そういったニーズとは比例して日中一時支援を行っている施設は少なく、キャンセル待ちをしている親御さんたちがいるのが現状である。また職員の数も足りず、ボランティアの支援者がもう少し増えれば日中一時支援で預かる子どもの数を増やすことができる。私自身もこれから「らいふ」にボランティアに行くなどして、地域支援活動に貢献していきたい。